

白藍塾オリジナル

2017入試小論文分析&解答のヒント

2017年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

●慶応・法学部

課題文は、日本を代表する憲法学者による、立憲主義を論じた文章。もともと新書でもあり、例年に比べると比較的読みやすい文章と言えるだろう。立憲主義、人権、公と私の区分など、今回の課題文で扱われている要素は、法学部志望であれば必ず押さえておくべきものであり、きちんと準備をしてきた受験生ならそれほど難しいとは感じないはずだ。

課題文は、前半3分の2で具体的な事例を交えながら「立憲主義」について説明し、後半3分の1では「愛国心」教育をめぐるかなり踏み込んだ議論を展開している。ただし、この後半の部分は、テーマと直接かかわる内容ではないので、精読する必要はない。

設問では、まず、「著者が立憲主義をどのような原則として理解しているか」を明らかにした上で、自分の考えを述べることが求められている。

要約は、愛国心教育の部分を除き、そこまでの部分から理論的な説明を抜き出してまとめるとよい。「個々人の価値観はさまざまなので、放っておくと究極の価値観をめぐる争いが起きる。それを防ぐには、公と私を区別して、私的な領域に政治権力が踏み込まないようにする必要がある。そして、社会の多数派が、公共のためという名目で、特定の価値観を抑圧したり助長したりするのを許してはならない」といった内容を、立憲主義の原則として説明するとよいだろう。字数指定はないが、300字程度にまとめればちょうどよいバランスになるはずだ。

その上で、そうした立憲主義の考え方が正しいかどうかを問題提起するのが正攻法だ。

法学部を志望するのに立憲主義そのものを否定することはできないので、イエスの立場に立って、立憲主義（公私の区分）の意義を具体的に論じるほうが、やはり書きやすい。ポピュリズムが席卷して、立憲主義が脅かされている国際社会の現状などを踏まえて論じることができれば、説得力も増す。

ノーの立場で書くなら、公と私の区分を強調しすぎるこの問題点を取り上げるとよいだろう。たとえば、「私的な領域に政府や自治体が介入するべきではない」という論理を延長すると、「貧困や病気などもすべて個人や家庭の自己責任なので、国や自治体が公的に援助をする必要はない」ということになってしまう。すると、福祉や社会保障も制限され、社会的弱者には生きにくい社会になってしまう恐れがある。そうしたことを論じると、ノーの立場でも説得力のある内容になるはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179) <http://www.hakuranjuku.co.jp>